

音楽科

1 昨年度の授業改善プランの検証 【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

○昨年度はコロナ禍の影響で歌唱と吹奏楽器（リコーダー・鍵盤ハーモニカ）の学習に一部制限があったが、今年度はコロナ前と同様に歌唱と吹奏楽器の技能を高める指導を行うことができた。

●楽曲の特徴や演奏のよさに気付いたり理解したりする力を高めるために、聴き取ったことや感じ取ったことを関連させて言葉で表す活動を更に増やす必要がある。

思考・判断・表現

○日頃の授業で、友達の演奏や鑑賞曲を聴いて感じたことや聴き取ったことを、音楽を特徴付けている要素を支えとしながら自分の言葉で伝えられる児童が増えてきた。

●音楽を特徴付けている要素を基に、歌詞の表す内容や曲想を、どのように表現するかについて思いや意図をもつことを継続的に指導する必要がある。

主体的に学習に取り組む態度

○授業で行ってきたグループ活動や、個人での発表を聴き合う活動を通して、友達の表現のよさを伝えたり課題をアドバイスしたりすることや、友達の表現のよさを自分の表現に生かすことができている。それに伴い、意欲的に授業に取り組む児童が増えてきた。

●児童が意欲的に授業に取り組むために、児童同士で協働し、楽曲にふさわしい表現を追究したり楽曲の特徴やそのよさを理解して鑑賞したりできるよう学習過程や学習形態を工夫する必要がある。

2 授業改善の骨子

(1) 表現領域では、どのように表現するかについて思いや意図をもつことを重視し、その思いや意図に合った表現の技能を高めるようにする。鑑賞領域では、曲想及びその変化と音楽の構造との関わり合いに着目しながら実感を通して知識を身に付けることができるようにする。

【知識・技能】

(2) 発達段階に応じ言語活動を取り入れた問題解決の学習過程で、友達の演奏や鑑賞曲を聴く活動を多く取り入れることで、音楽のよさに気付き深く味わったり、友達の演奏から学んだ表現の工夫を自分の演奏に生かしたりできるようにする。

【思考・判断・表現】

(3) 目的意識をもって、互いに認め合い、高め合い、協働して活動できるように、グループ活動を多く取り入れる。また、題材を通じた学習過程を意識した振り返りを行わせることで、学習に対する見通しをもったり、学習への調整を行ったりできるようにし、領域ごとの学びを関連付けて学習できるようにする。

【主体的に学習に取り組む態度】

音楽科

プラン① 表現領域では、どのように表現するかについて思いや意図をもつことを重視し、その思いや意図に合った表現の技能を高めるようにする。鑑賞領域では、曲想及びその変化と音楽の構造との関わり合いに着目しながら実感を通して知識を身に付けることができるようにする。

低学年

- ・ どのように歌うか、演奏するか、つくるかについての思いを実現させるための技能と考え、主体的な学習活動としての技能習得となるようにする。
- ・ 音楽を形づくっている要素の理解にあたっては、体を動かす活動を取り入れるなど、実感を伴ってその要素の働きを感じ取ることができるようにする。

中学年

- ・ どのように歌うか、演奏するか、つくるかについての思いや意図を実現させるための技能と考え、主体的な学習活動としての技能習得となるようにする。
- ・ 音楽を形づくっている要素の理解にあたっては、体を動かす活動や比較感受を取り入れるなど、実感を伴ってその要素の働きを感じ取ることができるようにする。

高学年

- ・ どのように歌うか、演奏するか、つくるかについての思いや意図を実現させるための技能と考え、表現の工夫と繰り返し関わらせながら、主体的な学習活動としての技能習得となるようにする。
- ・ 音楽を形づくっている要素の理解にあたっては、体を動かす活動や比較感受、要素と要素の関連付けを取り入れるなど、実感を伴ってその要素の働きを感じ取ることができるようにする。

プラン② 発達段階に応じ言語活動を取り入れた問題解決の学習過程で、友達の演奏や鑑賞曲を聴く活動を多く取り入れることで、音楽のよさに気づき深く味わったり、友達の演奏から学んだ表現の工夫を自分の演奏に生かしたりできるようにする。

低学年

- ・ 音楽を特徴付けている要素を意識付けし、問題解決的な学習の視点を育てる。
- ・ リズムを意識して、感じ取ったことを音や言葉、体で表現する活動を多く取り入れる。
- ・ 楽曲から感じ取ったことを、自分の言葉で発表し、互いの思いを聞く態度を養う。

中学年

- ・ 音楽を特徴付けている要素を聴き取り、主体性を育てる問題解決的な学習を取り入れる。
- ・ 歌唱・合奏を通して、曲想や歌詞の内容と関連させて、強弱や速度の工夫ができるようにする。
- ・ 曲想や想像したことを、共通事項と関連付けて発表し、互いの思いを聞く態度を伸ばす。
- ・ 気付いたことや感じたことを言葉で表現できるよう、発問やワークシートの工夫をする。

高学年

- ・ 音楽を特徴付けている要素を聴き取り、楽曲の構造を理解して表現の工夫ができるようにする。
- ・ 共通事項を理解し、自分の体験や想像を表現活動に生かして発展的スキル習得への意欲につなげる。
- ・ 曲想、変化、構成等を聴き取り、互いの思いや考えを聞いて、よさを認め合う場を設定し、個々の表現力を伸ばす。

プラン③ 目的意識をもって、互いに認め合い、高め合い、協働して活動できるように、グループ活動を多く取り入れる。また、題材を通した学習過程を意識させて振り返りを行うことで、学習に対する見通しをもったり、学習への調整を行ったりできるようにし、領域ごとの学びを関連付けて学習できるようにする。

低学年

- ・ 輪唱や身体表現、リズム遊びなど、みんなで楽しめる多様な楽曲・教材を取り入れ、友達と関わりながら意欲的に表現できるようにする。
- ・ 様々な楽器（鍵盤ハーモニカ・トライアングル・カスタネットなど）に触れ、音の面白さに気付かせ、基礎的な演奏技術の習得に、継続的に取り組めるよう工夫する。
- ・ こまめに既習事項を振り返り、関連させながら考えられるようにする。

中学年

- ・ 音楽を特徴付けている要素を聴き取り、主体性を育てる問題解決的な学習を取り入れる。
- ・ 歌唱・合奏を通して、曲想や歌詞の内容と関連させて強弱や速度の工夫ができるようにする。
- ・ 曲想や想像したことを、共通事項と関連付けて発表し、互いの思いを聞く態度を伸ばす。
- ・ 気付いたことや感じたことを言葉で表現できるよう、発問やワークシートの工夫をする。

高学年

- ・ 読譜・呼吸・発声に関心・意識をもてるようにし、聴き合うこと（グループ学習）で表現力を伸ばす。
- ・ 思いをもって音楽をつくり、知識と関連付け、基本的・発展的な演奏技術の習得に、継続的に取り組み、表現する力を伸ばす。
- ・ 学習の見通しをもてるように学習計画を把握できるようにし、振り返りながら自分の学習の仕方を考えることができるようにする。